

ミズベリング・「再生のプロセスを空間化、 景観化する建築とランドスケープ」



活動の目的

- 1 | かつて社会的役割を担ったが、現在は放置された土地の再生プロセスを空間化する
- 2 | 大学の設計課題を企業や地元自治体に発信、意見を取り入れ、実践的な提案とする

連携にいたる経緯

4年生の設計演習を関西の大学間で連携し、発表を行っている。2016年には国土交通省主催のミズベリング世界会議（堂島リバーフォーラム、2015年10月9～11日）と協働し、コンペ形式で関西を中心とした建築・都市系大学の学生が未来の水辺のあり方を提案した。

活動内容

本学の設計課題では、かつては一定の社会的役割を果たしながら、現在は放置され使われなくなった土地を再生するプロセスを建築、ランドスケープにより空間化する提案である。2016年度のミズベリング世界会議では、大学間で「水辺」をテーマとし共有した。本学からは4つの敷地で提案を行い、山の湧水・湖・川・汽水域と異なる条件下や歴史的観点から再生案を提示した。京都府宇治市の低利用となった余水路では、治水により市街地を守り、観光という観点で宇治川のポテンシャルを高める再生案となった。兵庫県西宮市の中州に浮かぶ旧清掃工場では、スポーツ施設へコンバージョンし、都市をスポーツにより活気づける拠点となるような再生案となった。学生発表の当日は、パネルや模型の展示を行い、国内外の大学教員などから講評を受けた。

活動の成果

- 1 | 近畿地方整備局長賞・伊藤香織（審査員）賞・佳作を受賞した
- 2 | 学生発表の後日、提案の実現に向けて近畿地方整備局との打ち合わせを行った

● 教員紹介



環境都市工学部 教授 **木下 光** (きのした ひかる)

モノ×ヒト=コトをコンセプトとして、香港・シンガポールを中心に公設市場・ストリートマーケット研究、アジアにおけるクールルーフ・ルーフスケープとしての瓦及び瓦建築の研究・開発、開かれた公共空間のデザインや管理運営、都市住宅における敷地計画・住環境形成、戦後日本の都市デザイン論などの研究を行っている。

DATA

● 主な連携先・メンバー

近畿地方整備局／大阪府／大阪市／大阪工業大学／大阪市立大学／大阪府立大学／関西大学／京都大学／神戸大学／立命館大学

● 活動地域

京都府宇治市／兵庫県西宮市／滋賀県大津市／奈良県川上村など(2015年度の場合)

● 活動資金

建築設計製図6 予算（環境都市工学部建築学科）



堂島リバーフォーラムでの展示



プレゼンテーション・表彰式風景

今後の課題・目標

- 1 | 企業や地元自治体に発信しているが、実現まで至っている事例は少ない。今後はより実践的かつ挑戦的な提案を行う
- 2 | 学生運営を行うことで、企業や地元自治体、地域コミュニティとの緊密な関係を構築する